

絶版旧車オーナーならば、オイル交換にはもっとも気を配りたいものである。今は絶好調でも、ノーメンテナンスが続ければいつしか不調になり、そのうちマフラーからは白煙が吹き出すようになってしまいます。

マフラーから吹き出される「煙」には大きく2種類あり、オイル上がり(ビス・トリングの摩耗など)やオイル下がり(吸排気バルブシステムの廻せやガイド・摩耗やシステムシールの不良など)によつてエンジンオイルが燃えてしまつと、

白煙をモクモク吹き出してしまつ。一方、キャブセッティングが濃かつたり、キャブ通路の摩耗でガソリンが濃くなつてると、黒煙を吹き出す。

いずれにしても、早急に原因追及すべきトラブルだが、白煙が吹き出した状態のまま走り続けていると、エンジンオイルが燃え減つてしまつ、気が付ければ「え? 焼き付き?」といった最悪の状況に直面するケースもある。白煙を吹いている工場は、要メンテナンスのサインだと考へるのが良い。

仮に、そのようなトラブルに見舞われた状況では、高性能エンジンオイルや高性能添加剤を注入したからといって自然治癒するものでもないことを知つておきたい。こんなトラブルに見舞われないためにも、エンジンコンディションが良いときから定期的にオイル交換を実施し、願わくば高性能エンジンオイルや高性能添加剤を併用すること

で、より良いエンジンコンディションをその後も維持していくといきたいものであるし、それは可能なのだ。

同じ白煙でも、アイドリング時からポボツ、ポボツと吹き出すケースと加速度時や減速時、また高回転領域だけで吹くようなケースでは、原因が違うと考えよう。白煙の状況によっては、最低限のメンテナンスで修理可能なケ



# SUPER ZOIL for IN-LINE 4 ENGINE

## 高性能エンジンオイル&オイル添加剤の積極利用で 愛車のエンジンを労りロングライフを目指そう!!

スムーズに気持ち良く回り、メカノイズが少ないエンジンでも、そのコンディションが一生続くとは限らない。

定期的なオイル交換が何よりも重要なことは周知の事実だが、そのオイル交換時に高性能なエンジンオイル添加剤を併用することでエンジン内部の摩擦が減り、オイルコンディションやパーツライフに大きな影響を与える事実、ご存じですか?

取材協力/ハヤコボレーション Phone03-3589-8000 <http://www.superzoil.com>



⑤エンジン始動直後から空吹かしのではなく、アイドリング+a程度の回転域を保持してエンジンオイルがひとまわりするのを待つ。1分程度オイルを回したらエンジンを停止する。



⑥630サイズのドライブチェーンはさすがに太く幅広い。この630サイズのままでチェーンの動きが悪くなると走行中の抵抗が大きく、そのぎごち無さを体感することもできる。まずは洗浄だ。



⑦エンジン停止直後ではなく1分程度待ってからレベル窓を確認し、不足している分だけエンジンオイルを補給する。アッパーレベルのラインを超えてはいけない。吹き返しの原因になる。



⑧シールチェーンを洗浄する際には「シール対応の洗浄液」を利用しよう。一般的なバーツクリーナーではNGだ。ここではスーパーゾイル・チェーンクリーナーを利用した。しっかりと振ってから吹き付けよう。このチェーングリスはシールチェーン対応だ。試運転後のチェーンが温かいときに施工するのがベストである。



## SUPER ZOIL ECO 4cycle

◎200ml 税別6800円 ◎320ml 税別9800円

メーカー純正エンジンオイルはもちろん、海外の有名ブランドオイルを普段から使っているマシンオーナーなら、オイル量に対し5%の添加で金属表面改質再生効果を得られるスーパーゾイル・エコがおすすめだ。特に、絶版旧車ではその効果を体感しやすいとのお話を多くリピーターも増えている。

聞くのが手取り早い。高速走行時は編隊クルージング時や追い越し加速時に白煙が吹き出さないか? 後続の仲間に聞いてみるのが良い。また、後続車の仲間から「オイル臭い!! オイルが焼けた臭いがする」などと言われたときにも要注意だ。

ここではカワサキZ1-Rのオイル交換を実践したが、利用したのはスーパーバーツクリーナー。これはガラス製のオイルクリーナーで、オイルを吸引して油滴を落とす構造だ。オーバーホール後間もない車両で、エンジンオイルの排出栓にエキパイを汚してしまったため、エキパイを洗浄する際にこのツールが活躍した。

このツールは、つい最近、腰上のオーバーホールを実施済みとのお話を聞いていたので、迷うことなくシーニティックゾイル10W40をチョイスした。

絶版車に低粘度の化学合成オイルを注入するとオイル漏れや滲みが目立ちやすくなるが、これは化学合成オイルが持つ高い浸透性に起因した問題だと考えられる。60年代以前の旧車は、そもそもオイル滲みを発生しやすい(ガスケットやパッキン紙のシール性が低い)、新品种ガスケットを使ってオーバーホールされたZ-1エンジン、しかも10W40の粘度指数ならオイル粘度がやわらか過ぎることもない。ちなみに超低粘度オイルと呼ばれるOW20や5Wなどでは、オイル滲みが発生しやすくなるので状況把握しておきたい。



## SYNTHETIC ZOIL 10W-40

◎1000ml 税抜4300円 4000ml 税抜1万6800円

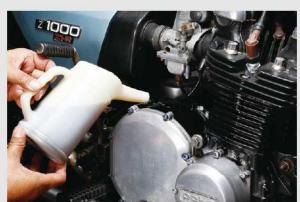
100% 化学合成の高性能エンジンオイルにスーパーゾイル成分を配合した商品がシンセティックゾイル。傷み疲れた金属表面を改質再生する効果と油膜の保持力により、4気筒エンジンの性能をしっかり引き出す。湿式クラッチに対応しているので安心だ。



①オイル交換の都度、オイルフィルターを交換するのがベストだが、前回のオイル&フィルター交換から1000kmに満たない走行距離だったので、今回はオイル交換のみ実施した。ドレンプラグとフィルターケースのドレンを抜いた。



②ドレンプラグにはマグネットが組み込まれており汚れや鉄粉が付着していた。オーナーに聞くとエンジン腰上のオーバーホール後間もないそうで、どうりで組み立て時に使われたであろう二硫化モリブデングリースも付着していた。ドレンはしっかり洗浄しよう。



③オイル交換およびオイルフィルター交換が可能な集合マフラーを取り付けていたが、エンジンオイルの排出栓にエキパイを汚してしまったため、エキパイをしっかり拭き取り脱脂した。

聞くのが手取り早い。高速走行時は編隊クルージング時や追い越し加速時に白煙が吹き出さないか? 後続の仲間に聞いてみるのが良い。また、後続車の仲間から「オイル臭い!! オイルが焼けた臭いがする」などと言われたときにも要注意だ。

ここではカワサキZ1-Rのオイル交換を実践したが、利用したのはスーパーバーツクリーナー。これはガラス製のオイルクリーナーで、オイルを吸引して油滴を落とす構造だ。オーバーホール後間もない車両で、エンジンオイルの排出栓にエキパイを汚してしまったため、エキパイを洗浄する際にこのツールが活躍した。

このツールは、つい最近、腰上のオーバーホールを実施済みとのお話を聞いていたので、迷うことなくシーニティックゾイル10W40をチョイスした。

絶版車に低粘度の化学合成オイルを注入するとオイル漏れや滲みが目立ちやすくなるが、これは化学合成オイルが持つ高い浸透性に起因した問題だと考えられる。60年代以前の旧車は、そもそもオイル滲みを発生しやすい(ガスケットやパッキン紙のシール性が低い)、新品种ガスケットを使ってオーバーホールされたZ-1エンジン、しかも10W40の粘度指数ならオイル粘度がやわらか過ぎることもない。ちなみに超低粘度オイルと呼ばれるOW20や5Wなどでは、オイル滲みが発生しやすくなるので状況把握しておきたい。